

■第2回 議事録

日 時：令和5年10月23日（月）10時～12時

場 所：東大阪市立障害児者支援センターレピラ 5階大会議室

出席者：松端議長、西川委員、森本委員、本多委員、辻本委員、胡中委員、児玉委員、
川邊委員、妹尾委員、高橋（昌）委員、坂本（諭）委員、地村委員、比名委員、
太田委員、濱田委員、和泉委員、坂本（ヒ）委員、潮谷委員、田村委員

次 第：1 案件

- （１）今後のスケジュールについて
- （２）アンケート結果について
- （３）第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画実績値について
- （４）第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画成果目標について

会議の経過

○開会あいさつ

○配布資料の確認

【松端議長】

- ・第2回目だが久しぶりの会となる。全体的に遅めの感じではあるが、後程また事務局より提案があると思う。
- ・今日の案件は次第にあるようにアンケート調査の結果、現計画の実績と進捗、今後の計画策定に向けて骨子案ということになっている。
- ・では次第に従いスケジュールについて説明を。

○事務局より今後のスケジュールについて資料説明

【松端議長】

- ・次回が11月29日に第3回の会議となるが、それまでにオンラインの意見交換会を実施するとのことだ。日程はどうなるのか。

【事務局】

- ・会長、副会長と調整させていただきたい。今週か来週を予定している。委員のみなさんにはメール等で候補日を連絡させていただくつもりだ。

【松端議長】

- ・本日も議論をいただくが、十分に意見が出尽くしていない場合には意見交換会を実施するということだ。参加が難しければメールや書面等でもよろしく願いしたい。
- ・では次の次第へ。

○事務局よりアンケート結果について資料説明

【松端議長】

- ・ 盛沢山のアンケートだが、丁寧に分析していただき、東大阪の状況が分かると思う。

【妹尾委員】

- ・ アンケートのなかでBCPとあるがどういう意味なのか教えていただきたい。
- ・ 資料のなかにふりがなを振ってほしい。1回目の会議ではふりがながありうれしかった。

【事務局】

- ・ BCPについては、事業継続計画の略称にあたるもので、事業所が何か災害やコロナ等のような異常な事態になった際に、それでもサービスの提供を継続できるように方針を計画しておくというものだ。
- ・ 今、すべての事業所で策定が義務付けられているが、現在2割程度しかまだ作られておらず、来年度からすべての事業所で作成しなければならないということになっている。
- ・ ふりがなについては大変申し訳ない。別途委員には説明資料を用意させていただいていたが、今回は調整の時間が取れなかったため改めて見ていただければと思う。

【地村委員】

- ・ 冒頭でも意見交換会の場を追加で設けていただくという話だったが、実際に計画を本当にいいものをつくっていかうと思うのであれば、資料などは早めにほしいところだ。今回は先週末に送られてきて忙しいのかもしれないが、間に合わないものなのかと感じた。もう少し早めに資料をいただき読み込んだ状況で会議に臨めればと思う。
- ・ 今の委員からの意見も、アンケートでも当事者が様々な情報が入りにくいとか、情報保障をどうするのかといったところに関心を持たれていたと思うが、会議の中でそうした障害のある人がいるなかで、情報保障のないまま会議が進んでいくのはどうかと思う。
- ・ 6ページの2番、福祉サービス利用に関して、障害児で重度訪問介護を既に利用が1.3%あるが、これは児童相談所などが認めた場合に使えるのかと思うが、そういう人が東大阪にいるということなのか、使える地域なのか。
- ・ 11ページの日中活動や社会参加で、自宅で過ごしているが34.3%とあるが、これは学校などに行っていない未就学児がここに入っているのか、それとも本来通学すべきような人たちが自宅で過ごしていたら学校に出ていないのかということになるので、この辺はどういう人が自宅で過ごしているのか分かれば教えていただきたい。
- ・ クロス集計が別紙で2つあがっているが、いろいろなクロス集計を知りたいと思っているのだが、何故この2つがあがっているのか。他は例えば時間がなかったということなのか、それか今市が一番今回のアンケートの結果で注目したのがこの2つだけだったということなのか。

【松端議長】

- ・ ひとつはスケジュールだが、他市の会議にも出ているが、1回分ほど時期が遅くずれている感じなので指摘の通りだろう。
- ・ クロスもそうで、例えば単純集計だけ先に出しておいて、クロスは追加的にまた出しますといった方法もあるが、今回クロスも2項目だけなのでちょっと遅いだろう。

【事務局】

- ・重度訪問介護を利用している人がいるかという点だが、確認したところいない。あくまでやはりアンケートとなるので、間違っただけで回答する人も出てくるため、その点で若干数値が出てしまっていると思われる。

【地村委員】

- ・ではその点は説明の際にふれていただきたい。資料だけを見ると使っているんだと思ってしまう。事務局で実際に把握できている部分があるのなら、アンケート報告に追記しておいてほしい。

【松端議長】

- ・ミスリードしてしまうということだ。
- ・日中活動の部分についてはどうか。

【事務局】

- ・昼間の時間をどのように過ごしているか主なものを3つまで選ぶ形式なので、普段通所施設などへ通いそれ以外の日で自宅で過ごしているケースなどはここに入ってくるとと思われる。ひとつだけ選択であればもう少し内容が変わってくるのかとも思う。

【地村委員】

- ・それは分かるがこれは一応児童対象ではないか。18歳未満で本来小学校や中学校へ通う年齢で34.3%が学校へ行けていないのではないかということになるので、なぜ行けていないのかが大事になってくるのではないか。

【松端議長】

- ・不登校が29万ともいわれるなか、本来席があるけど実質行けてないみたいなことも含まれているかもしれない。

【事務局】

- ・その点は分析が必要だが、自宅で過ごしている人の回答年齢を見ると、0歳から5歳までが全体の34%、6歳から11歳までが24%、12歳以上が42%となり、これが完全に他の何か通うところがない状態なのか個別の確認は難しいが、そこはクロスでもう一度確認はしてみたいと思う。

【地村委員】

- ・あまり細かい部分は分からないだろうとは思いますが、東大阪でひきこもりや不登校といったものもあると思うので、行けていない事情があるのであれば考えていく必要があるだろう。

【松端議長】

- ・年齢3階層でクロスすればどの階層で多いのかも分かるだろう。それを分析すると、自宅で過ごしているというのが実際は就学前の子どもが多いであるとか、もしそこが多ければその子どもたちが行く場所の確保が必要となるし、分析ができるだろう。

【地村委員】

- ・クロスがこの2つだけなのは時間があまりなかったということか。

【事務局】

- ・主な調査結果内にもいくつかクロス集計結果もふまえた分析もあるが、別出しにしたのは、自立支援協議会でも特に重度障害者の状況について調査しているところでもあったため別出ししたものだ。

【田村委員】

- ・もう一度意見できる場を設けるとのことなので、早急に単純集計の結果をいただきたい。それがなければクロスをどれで行うかが見えない。
- ・また前回との比較、前回からどのような変化があったのかの比較が見にくいので、このあたりをもう少し工夫していただき、次回までに提示していただければ変化した部分が把握しやすいのではないか。例えば、前は障害種別が全部入っているが、今回も入っているやつもあるが者と児で入っておりその辺が見にくい。障害種別によってはやっぱりそれぞれの思いが全然違うと思うので、それぞれの特性に応じてどう変わってきたのかということを見たい。

【松端議長】

- ・調査に関しては可能な限り整理をいただくということで、次のオンラインでの意見交換の時にはご提示いただけるとありがたい。私も時々行うが時間がかかるのは事実だ。とはいえ、スケジュールも決まっているのでできるだけそこは進めていただければと思う。

○事務局より第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画実績値について資料説明

【松端議長】

- ・実績と課題の確認となるが、府内で見ても独特の傾向があると思う。画策定の率が低いとか、地域移行や入所者の削減などなかなか計画通りに進まないなどの課題があるようだ。

【地村委員】

- ・4ページなどで市の基本的な考え方が述べられているが、地域生活への移行については家族や在宅からの地域自立も含まれていると解釈しておりもちろん大切な部分だが、表現しておいてほしいと思うのは必ずしも重度障害者の地域生活移行だけでなく、一方計画では見えにくい毎年施設入所希望の待機者が溜まっている現状があり、そうした人が地域にどれくらいいて、なぜそうした人は地域での生活が破綻したのかなどもっと情報を出してほしいと思う。
- ・実際、東大阪はそこが弱いから家族や介助者では面倒を見れなくなって地域生活を諦めるということになると思うので、その取り組みを計画内で充実させなければならない。先のアンケートでも地域で自立生活したいですかの問いに対して、分からないというような答えが結構多かった。結局家族や本人に地域にどういうサービスを使ってどんな生活が実際にできるのかということがまだまだイメージできず伝わっていないと思っている。そういったことをもっと必要な方々に情報が渡るような形をしていながら、社会資源不足の中でどうしても地域生活から離れざるを得ないような状況なる人には実際今何が一番課題になっているのかというところを、計画の中では重点的に取り組んでいただきたいと思う。
- ・5ページの6番、人材の確保は、特にホームの世話人や相談支援専門員が実際足りず逼迫しているというのはわれわれも肌で感じているし、実際アンケートの結果からもそういう声が出ており本当にその通りだと思う。ただアンケートの中にも、外出とか余暇を過ごすような部分の希望が高いが、結局はそこにサービス提供していただけないという声も一方で多く回答があり、本来はそういったところの担い手不足も、世話人とか相談支援専門員

の確保と合わせて非常に大切なところだと思っている。なので、そういったあたりのところも、市の考え方の中には含めておいてほしいという希望だ。

【松端議長】

- ・ 2006年の障害者自立支援法から始まって、地域生活移行は大きな目玉にあった。直後の一期二期三期くらいまでは順調だったが、そのままずっと停滞している。それを国のほうが今回改めて地域移行の推進を重視しているかと思うが、実際は一方ではそれが進まないという話だ。
- ・ 例えば意見にあったように、施設入所の希望者は結構数がいる。なので、出しては入りみたいなのも繰り返しになっている。出す方も鈍化しているので、地域生活に移行することも鈍化しているし、入所希望の理由はおそらくは家族と本人の高齢化もあり、自宅での生活がしんどくなっているという状況がある。
- ・ さてどうしますかということなので、計画そのものを通じて地域での暮らしを支えるということ、もっとしっかりと打ち出す必要があるかと思う。特に重度のサポートとか、今回特に強度行動障害の人のことや医療的ケアが問題になっているが、そういう支援プラス特別の配慮のような支援が必要な人にどうするかということになる。これも裏側で言うと、人材確保が非常に深刻なのでそのあたりどうするかだ。
- ・ 今まで通りの計画作りではあるが、課題がこれまで以上により顕在化してきているので、今までより踏み込んだ計画が必要かと思う。

【坂本（ヒ）委員】

- ・ 8ページの4、特別な支援の必要な障害者に対する支援体制について、強度行動障害や高次脳機能を有する障害のある子どもに対する支援といった部分は、以前も書かれていた文章なのか。児童の場合はやはり強度行動障害は二次障害だというふうに認識している。そうしたときに障害児のところで強度行動障害にももちろんなった人もいるかもしれないが、予防と言ったら変だが、そういうようなことも書いてはどうかと感じた。環境整備だとかいろいろなことがあるかと思うので。

【松端議長】

- ・ 強度行動障害、確かに前提のように言っているが、これは作られるものだ。もともと赤ちゃんのときから暴れ回る子はいないし、赤ちゃんのときから激しい子はいないと思う。

【坂本（ヒ）委員】

- ・ そうだ。児童のところにはやはりそういうような言葉も加えられたらいいのではないかなと思う。

【松端議長】

- ・ 実体として強度行動障害と言われる症状のある人が増えているのは事実だ。だが、指摘の通り二次障害というか、その子に対する適切な支援ができないために多分作られている。だから、強度行動障害と言われる人への支援をどうするかというのも重要だが、そもそもそういうふうにしじれていかないようなサポートが必要だ。
- ・ 個人的な感覚で言うと、多分本人から見たら納得のいかないことを強要されることが多いと思う。例えば、多動なのでは無理矢理座らされるとか、好き嫌いするときに無理に好き嫌いはダメだとか、本人のペースやり方ではなくて、支援者側とか教育する側の判断で強

要している場面が多いかと思う。だから、もっと個人に配慮して、その子の発達をサポートするみたいなことを皆が共有できると、そこまでこじれないかなと思うのだが。

【坂本（ヒ）委員】

- ・ もうー4 ページ、先ほど意見もあったが、なぜ入所施設から地域に出ないかというのと、皆地域に出るのがすごく不安だと思っている、充実してないから出せないという人がすごく多いと思う。地域の生活が安心して充実して過ごせるんだったら出したいという親はきつ多いと思うし、そういう本人と親の思いがどれだけ含まれ、入所施設の人が本人たちの声を聞いて地域出そうとしているのか、当事者入っている人たちの声がどれだけ反映されるのかという点ではないか。
- ・ やはり高度化重度化というのは、こんな言い方は当事者の親だから言えるが、医療も発達してきて環境も変わってきたから長生きできる、そうしたとき、本当に高度化重度化はすごく進んでいてももう待たなしで家で親が介護しているという人たちがいっぱいおり、その人たちはグループホームに行きたいと思っても世話人が足らず、地域に受け入れようとしても受けられないという状態が続いている。その辺のところで親としてもすごく悩んでいる人がいっぱい身近にいるのが現実だ。

【松端議長】

- ・ ずっと親亡き後のことがいわれてきたが、それでもあまり対策が進まないまま今日まで来てしまい、もういよいよ大変だという人はかなり多いだろう。

【和泉委員】

- ・ 同じく3 番についてだが、重度化高齢化についてあるが、重度化高齢化に特化したグループホームは東大阪市にはない。それを充実させるということは、事業者連絡会に参加して身としてもできないといえるだろう。
- ・ 書くのであれば、行政が特化したグループホームを作りますというのであれば分かるが、今の市内のグループホームは雨後の筍のように凄く増えているが、質が担保出来ているかはまた別の話という状況で、この文章からいくと、障害者が安心して暮らすことができるグループホームを充実させることによって重度化高齢化に対応することができるのであって、うちの場合は看取りもやったりしているがその人の生活をどう支えるかどう安心して暮らすかその人がどう生きていくのかということですずっとやってきた結果、その人がうちで高齢化していっただけの話であり重度化高齢化に特化しているつもりはなかった。
- ・ 書き方がずっと重度化・高齢化に対応したという形になっており、それは難しいのではないかな。本人がどうしたいか、本人が安心して暮らすことができるグループホームを充実すれば、それは必然的にその本人が高齢化してかつ重度化するかもしれないだけで、そういうグループホームを目指していかないと、方向性よして重度化高齢化を目指したところで今の法人がそれを目指すことはないだろう。
- ・ あと、5 ページの人材確保だが、ここにはヘルパーがいないという現状を書いておいてもらいたい。

【松端議長】

- ・ ヘルパーが決定的に不足している。
- ・ 重度対応でいうと、日中支援型、24時間対応の昼間に日中どこかに出ていかなくてもそこ

にずっといいというグループホームあたりがイメージだったのだからどうか。

【事務局】

- ・日中活動支援型は東大阪には1件もない状態だ。それを増やすという意図は持っていなかった。この辺りの書きぶりは意見を参考に検討したいと思う。
- ・特別なホームを増やすという意図ではなく、グループホームは既に沢山あるので、そのなかで重度も軽度も生活できることが理想なので、そのためには経験豊富な人材を育てなければならないというところや、地域移行とも絡めて考えているが、地域移行が進まないのは地域の生活を知らないままで地域で生活している人が多くおり、そうした人が地域生活を体験していただくなどするなかで事業者もそうした人への対応の仕方を学んでいただく、そして対応できる人材をつくっていくことで、結果として地域移行できるようにといった既存のホームでそういったものをひとつでも増やしたいと考えている。

【松端議長】

- ・表現を改めて、実際にどのような仕組みをつくりサポート体制をつくっていくかになるだろう。

【潮谷委員】

- ・6ページ5番、強度行動障害の人への支援について、国の方から3月に出た強度行動障害の人への支援の内容をふまえて書いてほしい。そのなかでは広域的なスーパーバイズできる人材育成、また施設のなかでもそういった支援が出来る人材育成というものが出ているので、そこへ向けた人材育成をもっと出すべきではないか。今グループホームの支援の話もあったが、グループホームでの強度行動障害の人への関りのアドバイスや家族へのアドバイスができる体制整備は必要だろう。
- ・また、もう一点、自立支援協議会のなかでの定期的な強度行動障害の人についての事例検討があげられているので、地域で支援していくという視点で書いていただければと思う。
- ・文章の中で、「サービスにつながっていない在宅障害者を把握し」とあるが、これは強度行動障害に特化した話だけではなく、在宅でサービス利用していない人をアウトリーチし積極的に把握していくというのは今後重要なポイントになってくるので、この文章を書くのであれば、強度行動障害だけでなく全体的に取り組むべき課題として書くべきではないか。府下においてもサービス未利用者で重度障害の人へ積極的訪問をかけるという市町村も出て来ており、ぜひ東大阪市でも検討していただきたいので、項目建てをお願いしたい。
- ・6ページ4番、相談支援について、府の方で8月に相談支援のあり方について報告書が出ているので、ふまえて書いていただきたい。セルフプランの見直し、高齢期や医ケア、行動障害の人などにはなるべく計画相談をつけていくといった、セルフプランの実態把握を盛り込んでいただきたい。
- ・相談支援の人材確保でいうと、廃止になっている事業所も多いので、ひとり相談支援事業所や若手相談支援事業所のバックアップも検討をお願いしたい。
- ・また、協議会か相談支援のなかあたりに項目建てした方がいいかとも思うが、重層的包括支援体制に個別支援からつないでいくシステムをつくっていくというあたりが今後重要なポイントになってくると思うので、しっかり書いた方がいいのではないかな。

【松端議長】

- ・強度行動障害については国も力をいれているし指針もあるので、広域的なスーパーバイズの仕組みや自立支援協議会での事例検討といった具体のことにふれているので、しっかり書いた方がいいだろう。
- ・在宅障害者の把握は、実は制度につながっていない人が多くいるので、必ずしも強度行動障害や高次脳機能障害の人に限らないということだ。
- ・相談支援のあり方では、府の検討会もふくめ、セルフプランの人は結局それで十分な支援が受けられているのかという話もあるので、その辺りの実態把握が必要だということだ。
- ・相談支援事業所もなかなか大変な窮状で、ひとり事業所が結構多く、対応する側が十分な体制ができておらず、ヘルパーだけでなく相談の段階でも不足が起きている。
- ・地域福祉計画とも関係するが、包括的支援体制をつくるというのが国の大きな流れだ。これは障害とか高齢とか子どもとかいう分野を超えて、属性を超えて包括的に支援できる体制を作りましょうというもので、そのなかに重層的支援体制整備事業というものがあり、実は大きな東大阪市における相談支援の体制、包括的支援の体制の中に障害系の相談支援も位置付けられるので、全体の中での位置付けをしっかり明記しておく必要があるだろう

【川邊委員】

- ・ 6 ページ、発達障害に対する支援の項目があるが、支援が受けられるように努めますということだけでなく、自閉症スペクトラムへの啓発と理解もしっかりと進めるという記載をしなければ進んでいけないのではないかと。啓発や理解をどこが行うかとなると、おそらく健康づくり課など妥当な課で進めていかないと市民に情報が入ってこないのでは、付け加えて欲しい。
- ・ 7 ページ、協議会の設置等だが、ここはきちり書かれており嬉しいが、ただ、私たち高齢の家族にとっては家族会の意見を出して協議していただく、知っていただく場が東大阪にはない。協議会のなかに家族会も入れていただき、意見を出していける場を具体的に作っていただきたい。
- ・ 精神疾患を持つ家族の場合一番困っているのは、思春期に発症するので段々と年齢が上がり今一番高齢な家族にあたる。自閉症スペクトラムの児童への支援は熱心に取り組まれているが、大人になって今支援を受けようと思ってもどうすればいいのか、病院から退院した後に支援を受ける先がない。東大阪の市民として住みよいまちをつくっていく計画なのだから、そういった意見を出せる場を自立支援協議会の中に位置付けて欲しいし、自立支援協議会に当事者は入っているが家族が入っていないので、ぜひ協議の場をつくるよう具体的に検討をお願いしたい。
- ・ あと、前回要約筆記をお願いしたので今回は要約筆記がありありがたいが、スクリーンを前に設置し全員が見える体制にし、アクセシビリティ法も出来た中、そういった体制づくりも今後お願いしたい。

【本多委員】

- ・ 5 ページ 6 番、人材確保について、ヘルパー不足がここ最近特に顕著で、通院同行や外出支援、居宅も含めてヘルパー不足が深刻な状況だ。今回のアンケートでは数値ではあまりあがってこなかったかもしれないが、現場では必須だと思うので入れていただきたい。
- ・ 同じく日中活動系サービスについて、13 ページに就労系の目標等の報告があったが、就労

AやBを利用している精神障害者は非常に多いが、なかなかそこに至らない、利用できない精神障害者も多くおり、それがアンケートの40%ほどが引きこもりがちという結果に結びついているのではないかと思う。就労系のサービスが使えない人のこともこの辺りに盛り込んでほしい。生活介護であったり、自立訓練であったり、あるいは精神障害者の場合は福祉サービスではないが日中系の居場所としてデイケアなどを利用している人もいるので、少し就労系以外の居場所のところも考えていただきたい。

- ・ 11ページ、精神障害にも対応した地域防衛ケアシステムの構築について、精神科からの退院については一番数字として見ていけるところなので、地域移行のこととイコールにされてしまうところがあるが、実際は地域でどう支えていくかという点で議論をする部分だと思うので、退院だけに視点がいつてしまわないような書き方をお願いしたい。

【坂本（諭）委員】

- ・ 今年度からこの会議に入っているが、見通しが持てない感じがする。実際の具体例は何なのかというところがあまり読めない。例えば体制の整備を整えますとか、何とかという方針ですというところが、どんなふうになんかするというのが見えないと感じる。それがまた今後出てくるのか。方針への課題とか、その方針に対してどうしますとかというところはどうか。

【松端議長】

- ・ 今後計画書の策定に向けて、今回の議論を踏まえてそれを文字に反映させていくことになる。

【坂本（諭）委員】

- ・ そうであれば今回アンケートを取った中をここに踏まえさせていかないといけないのではないかと思うのだが、例えばヘルパーが足りないとか、強度行動障害の事業所が少ないとか、国からの指示などいろいろあったが、アンケートとイコールになっていない所がいくつかあるので、その辺りをもう少し確認していかなければならないのではないか。

【松端議長】

- ・ 指摘の通り、アンケートの結果、障害福祉計画、障害児福祉計画というサービス利用の整備に向けた計画があり、そしてもうひとつ障害者計画という大きな計画があるので、その中でどういう形で全体として計画書として整備するかということになるが、これが冒頭でもあったがやや遅れ気味なので、本当はもう1～2ヶ月くらい前にこういう話があったとあった状況になっている。

【坂本（諭）委員】

- ・ もう少し市の方針とかを出していただければ、もう少し議論がしやすいのかなと感じた。

【田村委員】

- ・ 8ページ、わざわざインクルージョンの日本語訳を「抱擁」とするのが分からない。書くのであれば「包摂」ではないか。議論をしないのであればインクルージョンだけにすべきだ。

【松端議長】

- ・ 時間が来たが、今日は資料4があり計画目標についての議論がまだできていないので、やはりオンラインでの意見交換会を実施する必要があるだろう。

【事務局】

- ・ 成果目標の細かいサービス見込についても一部整っていない部分もあるので、成果目標と活動指標については、次回オンライン会議のなかで議論したいと思う。
- ・ おそらく今日もすべての意見をいただけていないと思うので、オンライン会議へできる限り参加をお願いしたい。

【松端議長】

- ・ 駆け足になったが、今後事務局よりオンライン会議の案内があると思うが、参加が難しい人は書面等でも意見をお願いしたい。

(以上)